

自己補修型漏れ検査剤

タセト チェックタイト[®]

チェックタイトは、貫通欠陥の検出と微細漏れ部の封止の二つの機能を合わせ持つ、全く新しいタイプの漏れ検査剤です。

従来は、浸透探傷液で漏れ検査を行い、その後に検出された貫通欠陥を補修しておりました。しかし、この手法では検出限界、見逃し等があり漏れを完全に止めることは至難の業でした。

チェックタイトは、①有害な貫通傷は高い感度で確実に検出 ②微細漏れは、貫通孔内に浸透した本液が重合硬化し、完全に止めるなどの特徴を有しています。

新しく開発したチェックタイト方式は、検査だけでなく漏れ封止及びその後の補修も考えた理想的な漏れ検査剤と言えます。

《用途》

漏れ検査・補修工程全般

- ・タンク、及び密閉容器
- ・各種配管類
- ・車体
- ・鋳鋼品の巣孔
- ・地下室、トンネル内壁など

《外観・包装単位》

	主剤	硬化剤
チェックタイト A	チェックタイト AR (赤色液体) チェックタイト AF (蛍光液体) チェックタイト AC (透明液体)	チェックタイト AH
チェックタイト E	チェックタイト ER (赤色液体) チェックタイト EF (蛍光液体) チェックタイト EC (透明液体)	チェックタイト EH
包装単位	1L、4L、18L	0.2L (チェックタイト AH のみ) 0.5L (チェックタイト EH のみ) 1L、4L

《特徴》

1. 貫通欠陥は高感度で赤 / 白 (染色)、黄緑 / 暗所 (蛍光) の指示模様で検出します。
2. 微細欠陥は本液が傷内で重合硬化し、漏れを止めます。
3. 耐圧強度があります。(例) 板厚 3 mm、孔径 0.5 mm で 6.0MPa 以上
4. チェックタイト A では、被塗物表面に残っている液は硬化しませんので、拭き取ることができます。
5. 検査後、パテなどの補修剤を用いる場合は、塗膜の上から補修ができます。

《可使・硬化時間・塗布面積》

	主剤：硬化剤	可使時間 ¹⁾	硬化時間	塗布面積
チェックタイト A	10 : 1	1 時間	24 時間	4~20 m ² / L
チェックタイト E	10 : 4	2 時間	24 時間	

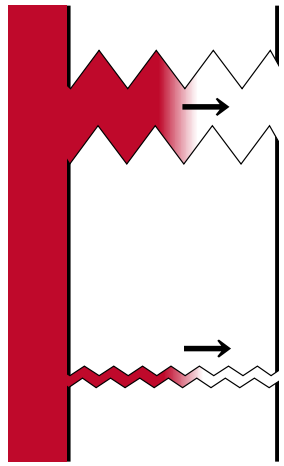
¹⁾ 主剤と硬化剤と混合後、漏れ検査剤として使用可能な時間 (25℃の場合)

《使用方法》

1. 使用直前に主剤と硬化剤を十分混ぜ、検査体表面に塗布してください。
*チェックタイト A は、一度に主剤と硬化剤を多量に混合しますと、硬化時に発熱を伴い危険ですので、混合する量は 1L 以下を目安に行ってください。
2. 反対面にカラーチェック現像剤 FD-S を塗布し（蛍光液の場合は暗所でブラックライト照射）、20～60 分後に漏れてくる指示模様を観察します。蛍光液の場合、無現像でも漏れの確認が可能です。
3. 硬化後、パテや塗装も可能です。（必ず事前チェックをお願いします）
*液の除去が必要な場合は、硬化前に洗浄剤などで除去して下さい。

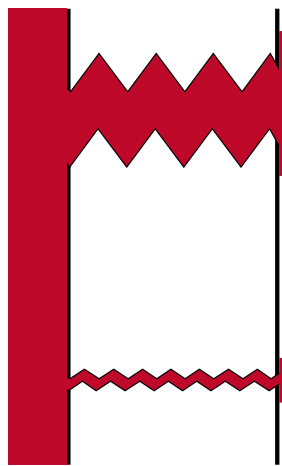
《漏れ検出と補修のメカニズム》

塗布（赤色又は蛍光）



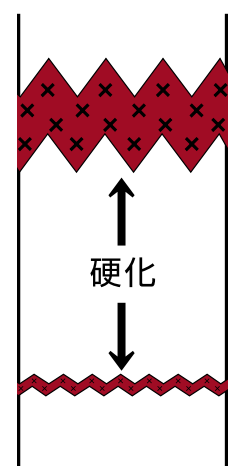
低粘度、優れた浸透性で微細孔にも浸透します。

漏れ検出・観察



赤色染色浸透液の場合は、カラーチェック現像剤 FD-S を併用。蛍光浸透液の場合は、ブラックライトで観察。

漏れ部の補修



検査後、貫通傷内のチェックタイトが硬化し、微細漏れ部を確実に封止します。
*大きな欠陥は直接パテ補修
*直接塗装なども可能

《補修の考え方と欠陥の大きさ》

- 従来法：検査、後処理後 検出欠陥を補修
- * 微細欠陥：検出限界以下又は見落とし欠陥等で漏れの完全封止は困難の場合がある。
 - * 漏れ検出部の補修が大変
- 本法：検査と補修を同時に実施
- * 検出限界以下は確実に封止
 - * 強度に影響のない微細欠陥はそのまま封止
 - * 本液で止まらない大きな欠陥はパテなどで補修。

検出孔径と封止の関係

貫通欠陥孔径	検出	漏れの封止	漏れの対策
0.1 μ 以上	×	○	OK
1 μ	△	○	OK
10 μ	○	○	OK
100 μ	○	○	OK
1mm	○	○	OK
3mm 以上	○	×～△	パテなどを併用

株式会社

タセト

〒251-0014 神奈川県藤沢市宮前 100-1
TEL : 0466-29-5638
FAX : 0466-29-5630

■札幌支店 TEL : 011-281-0911
FAX : 011-281-0912
■東京支店 TEL : 045-430-3829
FAX : 045-430-3834
■関東支店 TEL : 048-682-2626
FAX : 048-687-6600
■京葉支店 TEL : 043-284-8721
FAX : 043-284-8723
■名古屋支店 TEL : 052-824-4545
FAX : 052-824-4549
■新潟営業所 TEL : 025-275-0823
FAX : 025-271-9560

■大阪支店 TEL : 06-6190-1911
FAX : 06-6190-1922
■岡山支店 TEL : 086-455-6161
FAX : 086-455-3176
■徳山営業所 TEL : 0834-25-0320
FAX : 0834-25-0668
■広島支店 TEL : 082-240-7651
FAX : 082-240-7660
■福岡支店 TEL : 092-291-0026
FAX : 092-291-4613
■海外部 TEL : 045-430-3835
FAX : 045-430-3834